

ナベブタムシ *Aphelocheirus vittatus* Matsumura

【選定理由】

主として河川上流域およびその支流となる小河川の清流に生息しているが、砂地のある清流の減少に伴いその生息が危惧されている。護岸工事や水質等の悪化により減少している。

【形態】

体長は8.5～10mm、体型はほぼ円形・扁平である。体色はやや変化が見られるが、一般に頭部は黄褐色、胸部・腹部背面は暗褐色の地色に黄褐色斑がある。前胸背の側角は円みを帯び、尖らない。通常は短翅型で、稀に長翅型が出現する。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽町、豊田市、岡崎市、西尾市、瀬戸市などの河川で確認されている。

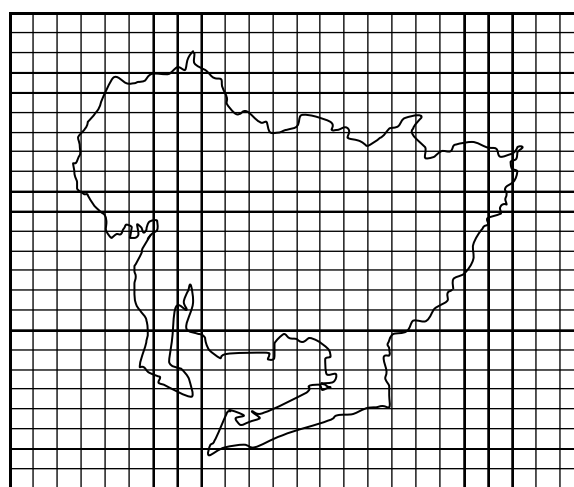
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

韓国。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

低山間地の清流に生息し、底質が細かい砂礫の早瀬でよく確認される。プラストロン呼吸により、終生水中で生活することができる。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

陸上昆虫類の調査要領では確認しにくいいため報告例は少ないが、実際にはより多くの産地があると考えられる。また、生息地での個体数は比較的多い。水質を含めた水環境に大きく依存する種であるので、護岸工事や後背地の森林の荒廃が減少要因と考えられる。

【保全上の留意点】

護岸工事など河川改修に当たっては、土砂の改変に留意し、濁水の発生を抑え、水の流れが完全に遮断されることがないように気をつける必要がある。主として早瀬に依存しているため、直線的で単調な流れの河川形態にすることは避ける必要がある。

【関連文献】

- 浅岡孝知, 2001. 旭町のカメムシ目. 旭町の昆虫: 65-84. 旭町.
浅岡孝知・家城 司, 1990. 愛知県の異翅目. 愛知県の昆虫, (上): 123-162. 愛知県.
矢崎充彦・石田和男, 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60 (234): 165-200.